2 Ha- 3

現代中国の家政学的研究と教育の課題

○ 趙穎＊＊　　岸本幸臣＊　　宮崎陽子＊＊
（＊ 大阪教育大学　　＊＊ 大阪教育大学大学院）

【研究目的】 近代化･都市化を目指して発展している現代中国では、社会生活と家庭生活面での急速な構造的変化と理念の転換に従い、人々の家庭生活に様々な矛盾と混乱が生じており、人々の生活を直接の研究対象とする家政学の確立が急がれている。本研究は、中国での家政学的研究と教育課題の整理を目的とし、次代の家庭生活のオピニオンリーダーになる大学生を対象に、彼らの家庭生活と住生活に関する意識特性を考察したものである。

【研究方法】 2000 年 6 月 9、12、15 日に中国の北京市と天津市の三大学の学生（全寮制）を対象に、直接配票・当日回収の方式によるアンケート調査を実施した。配布数は 248 票、回収数は 233 票で、有効回収率は 94％であった。

【考察結果】 （生活実態）大学生は親元を離れて生活しているが、週に 1 回以上家族と交流をとる人は 74. 3％を占めている。（家族観･生活観）家族観としては民主的関係と愛情に基づく近代核家族像への志向が強い。従来の社会奉仕と社会保障を中心とした価値観（25. 3％）は自助努力意識を前提とした家族中心的価値観（32. 9％）へ転換する傾向がみられた。家庭生活に於いては家族への帰属感と家族関係に対する重視度が高く見られ、伝統的「家庭養老観」（22. 7％）を改め、社会福祉の整備を前提とした新しい養老方式が求められている。（住居観）自然重視の接地型住宅（53. 7％）と郊外の高層集合型住宅（25. 6％）という相矛盾する志向特性が見られる。また、自助責任による住み替えの期待が 74. 7％と非常に高い。（生活知識と生活者教育）生活の知識と情報の取得が殆どマスコミの情報伝達（74. 9％）と個人の生活実践（71. 0％）に任せられている現実の中で、家庭生活に関する研究･教育への関心と期待が高い。